

平成27年度

教育委員会点検評価報告書
(平成26年度対象)

平成27年9月

大鰐町教育委員会

目 次

I	点検・評価の概要	1
II	点検・評価の対象及び方法	1
III	評価委員	1
IV	評価委員会	1
V	平成26年度 大鰐町の教育	1
	1 大鰐町が目指す町の姿	
	2 大鰐町教育委員会の基本方針	
	3 平成26年度 大鰐町教育方針体系図	
VI	教育委員会の活動状況	3
	1-1 教育委員の構成（平成26年4月1日現在）	
	1-2 教育委員の構成（平成27年3月31日現在）	
	2 教育委員会会議の開催状況	
	3 教育委員の行事等参加状況	
VII	主要施策の点検・評価	7
	1 学校教育の推進	
	2 社会教育の推進	
	3 芸術文化の振興と文化財の保護活用	
	4 生涯スポーツの振興	
VIII	平成26年度 主な事業と経費及び成果等	15
IX	評価委員による点検・評価	18

I 点検・評価の概要

趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律で、教育委員会は、毎年その権限に属する教育行政事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することが規定されております。

この法律の規定により、大鰐町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たしていくために教育に関する点検及び評価を実施し、報告書にまとめました。

II 点検・評価の対象及び方法

点検・評価の対象は、前年度に管理及び執行した事務のうち大鰐町主要施策に基づく重点の事務事業を教育委員会が自己評価しました。

- A…達成している
- B…ほぼ達成している
- C…やや達成していない
- D…達成していない

III 評価委員

- ・藤 田 昇 治（弘前大学生涯学習教育研究センター
兼大学院地域社会研究科准教授）
- ・鎮 目 志保子（元小学校教諭）
- ・山 口 裕 子（元小学校校長）

IV 評価委員会

- ① 平成27年 7月 2日（木）
- ② 平成27年 7月28日（火）

V 平成26年度 大鰐町の教育

平成26年度 大鰐町の教育

1 大鰐町が目指す町の姿

湯の郷・雪の郷・りんごの郷 おおわに

- ① 美しく・潤いのあるまちを創る
- ② にぎわいと住みやすさのあるまちを創る
- ③ 活力と夢を育むまちを創る
- ④ 豊かな心と学びのまちを創る
- ⑤ 健やかで笑顔のあるまちを創る
- ⑥ みんなで築くまちを創る

（第5次大鰐町総合振興計画）

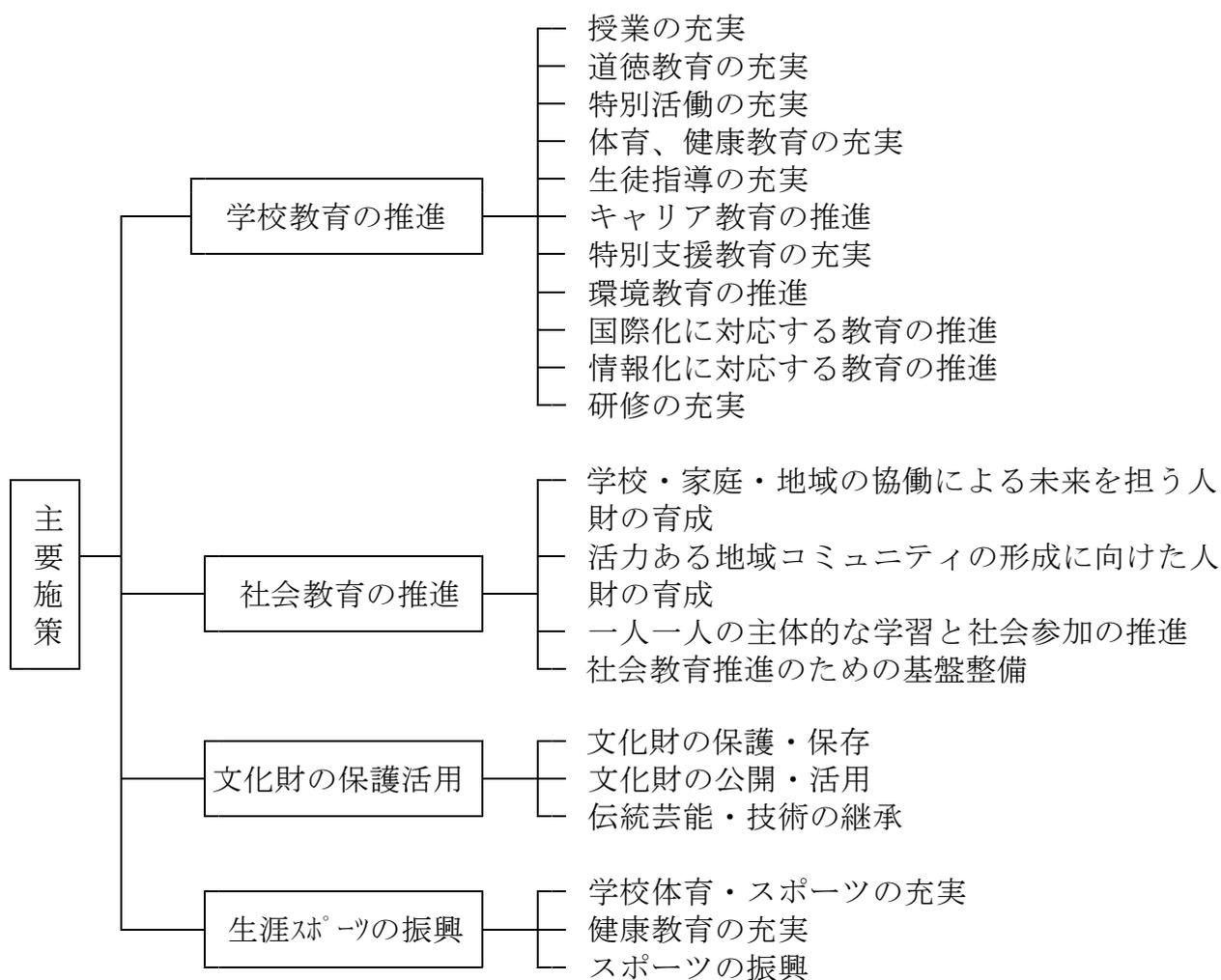
2 大鰐町教育委員会の基本方針

大鰐町は、県教育委員会、その他関係機関・団体との連携を図りながら、町を育てる学力、町に生かせる学力を育てていきます。

大鰐町の未来を創る人財の育成

一人一人が学び、郷土を愛する、心豊かで
たくましい人づくり

3 平成26年度大鰐町教育方針体系図



VI 教育委員会の活動状況

1-1 教育委員の構成（平成26年4月1日現在）

役職名	氏名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備考
委員長	成田 信一郎	H23.12.18 ～ H27.12.17	H25.12.25 ～ H26.12.24	H25.12.25 委員長就任
委員長 職務代理者	小西 祐	H24.10.29 ～ H28.10.28		H24.12.25 委員長職務代理者就任

委員	貴田 範子	H23.7.13 ～ H27.7.12		H23.7.13 就任
委員	竹内 初男	H25.12.25 ～ H29.12.24		H24.9.19 就任
教育長	木田 専一	H24.10.29 ～ H28.10.28	H24.10.29 ～ H28.10.28	H24.10.29 教育長就任

1 - 2 教育委員の構成（平成27年3月31日現在）

役職名	氏名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備考
委員長	成田 信一郎	H23.12.18 ～ H27.12.17	H26.12.25 ～ H27.12.24	H26.12.25 委員長就任
委員長 職務代理者	小西 祐	H24.10.29 ～ H28.10.28		H24.12.25 委員長職務代理者就任
委員	貴田 範子	H23.7.13 ～ H27.7.12		H23.7.13 就任
委員	竹内 初男	H25.12.25 ～ H29.12.24		H24.9.19 就任
教育長	木田 専一	H24.10.29 ～ H28.10.28	H24.10.29 ～ H28.10.28	H24.10.29 教育長就任

2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月1回「教育委員会定例会議」を開催している。また、必要に応じて臨時会を開催し、平成26年度の定例会は12回、臨時会は1回の合計13回開催した。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第13条及び「大鰐町教育委員会会議規則」の規定に基づき、平成26年度は以下の案件について審議及び報告事項による確認を行なった。なお、定例会では教育長に関わる業務内容を毎回報告し、教育委員間で認識の共有化に努めている。

開催日	件名
第1回 定例会 4月7日	報告事項1 業務報告 報告事項2 平成26年度大鰐町教育委員会事務局職員名簿について
第2回 定例会 5月12日	報告事項1 業務報告 議案第1号 大鰐町スポーツ推進委員の委嘱について

第3回 定例会 6月2日	報告事項1 業務報告 報告事項2 平成26年度 要・準保護児童生徒の認定について 議案第2号 大鰐町学校設置条例の一部を改正する条例案 議案第3号 大鰐町社会教育委員条例の一部を改正する条例案 議案第4号 大鰐町文化財審議委員の委嘱について 議案第5号 大鰐町中央公民館運営審議委員の委嘱について 議案第6号 大鰐町私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部を改正する訓令案
第4回 定例会 7月7日	報告事項1 大鰐町立小学校統合アンケート途中経過について 議案第7号 英語指導助手就業規則の一部を改正する訓令案
第5回 定例会 8月5日	報告事項1 業務報告 議案第8号 大鰐町学校給食センター就業規則の一部を改正する規則（案）
第6回 定例会 9月1日	報告事項1 業務報告 報告事項2 平成25年度大鰐町教育委員会の事務に関する点検及び評価について

開催日	件名
第7回 定例会 10月7日	報告事項1 業務報告 報告事項2 小学性の携帯・スマホの利用状況について
第8回 定例会 11月5日	報告事項1 業務報告 議案第8号 大鰐町社会教育委員の委嘱について 議案第9号 大鰐就学援助事業実施要項の一部を改正する訓令案
第9回 定例会 12月1日	報告事項1 業務報告 報告事項2 大鰐町立小学校統合の説明会について
第1回 臨時会 12月22日	議案第10号 大鰐町教育委員会委員長選任について 報告事項1 新教育委員会制度への移行について
第10回 定例会 1月9日	報告事項1 業務報告
第11回 定例会 2月3日	報告事項1 業務報告 報告事項2 平成26年度 青森県学習状況調査結果について 報告事項3 大鰐町教育振興基本計画（案）について
第12回 定例会	報告事項1 業務報告 議案第11号 大鰐町通学路安全対策推進協議会設置について

3月4日	議案第12号 平成26年度学校教育活動表彰被表彰者の選考について 議案第13号 平成26年度大鰐町文化活動表彰被表彰者の選考について 議案第14号 平成26年度大鰐町スポーツ賞・スポーツ奨励賞表彰被表彰者の選考について
------	---

3 教育委員の行事等参加状況

教育委員会は、教育委員会会議のほか、学校行事及び研修会等に参加している。

期 日	行事・研修会等	場 所	参加委員
平成26年 4月7日	大鰐町立小学校及び中学校入学式	各学校	全委員
4月7日	南地方市町村教育委員会連絡協議会総会	黒石市	全議員
4月22日	大鰐町教職員全員研修会	大鰐中学校	全議員
5月18日	大鰐小、第二小、蔵館小運動会	各小学校	学区の委員
5月23日	青森県市町村教育委員会委員総会・研修会	青森市	全委員
5月25日	長峰小学校運動会	長峰小学校	学区の委員
5月30日	大鰐中学校運動会	大鰐中学校	全委員
6月6日	大鰐町立小学校体育祭	大鰐小学校	全委員
6月23日	前期学校訪問（長峰小、大鰐小、大鰐中）	各学校	全委員
6月24日	前期学校訪問（蔵館小、第二小）	各学校	全委員
7月8日	社会を明るくする運動	大鰐中学校	全委員
7月18日	東北地区市町村教育委員研究協議会	盛岡市	全委員
8月9日	大鰐町成人式	総合福祉センター	全委員
9月26日	南地方市町村教育委員会連絡協議会秋季研修会	藤崎町	全委員
9月27日	大鰐町学校音楽祭	大鰐小学校	全委員
10月5日	大鰐第二小学校閉校式	第二小学校	学区委員
10月12日	蔵館小学校閉校式	蔵館小学校	学区委員
10月19日	長峰小学校閉校式	長峰小学校	学区委員
10月26日	大鰐小学校140周年記念式典・閉校式	大鰐小学校	学区委員
11月12日	後期学校訪問（大鰐中、蔵館小、長峰小）	各学校	全委員
11月13日	後期学校訪問（大鰐小、第二小）	各学校	全委員

11月26日	大鰐町立小学校統合推進住民合同説明会	鰐 come	全委員
平成27年 1月29日	大鰐町立小学校統合推進住民合同説明会	鰐 come	全委員
2月18日	大鰐町小学校スキー大会	大鰐スキー場	全委員
3月13日	大鰐中学校卒業式	大鰐中学校	全委員
3月20日	大鰐町立小学校卒業式	各小学校	学区の委員
3月23日	大鰐町教育委員会顕彰式	中央公民館	全委員

VII 主要施策の点検・評価

1 学校教育の推進

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1) 授業の充実	一人一人の子どもが、各教科及び総合的な学習の時間等に主体的に取り組み、確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。	コンピュータを活用した調べ学習を推進したり、一人勉強マニュアル本を作成し、取り組ませることにより、主体的に学ぶ児童が増えた。 学力・学習に関する諸調査結果を活用した課題分析や年2回の生徒による授業評価を生かした授業改善を行なうとともに、言語活動を校内研修のテーマにした授業を実践できた。課題は、教員の多忙化により教材研究の時間確保が難しくなったこと。	A
(2) 道徳教育の充実	一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を具体的な生活の中に生かし得るよう、道徳性の育成に努める。	思春期教室、ボランティア活動、人権教室、自然体験活動等をはじめ、他教科や総合的な学習の時間と道徳の時間を関連づけて指導するなど、教育活動全般にわたって道徳を意識することにより、道徳的实践力が身につくところがある。	B
(3) 特別活動の充実	一人一人の子どもが、望ましい集団や豊かな体験の中で互いの個性を認め合い、協力してよりよい生活や人間関係を築いていくことができるよう、自主的、実践的な態度の育成に努める。	児童の実態、行事、時期に合わせた指導計画を作成し学級活動を行なうとともに、各学級とも係活動コーナーを設置し、児童が自由に使える材料や用具を準備して活動できるようにしたところ、学級活動	

		<p>に自主的に取り組む児童が増えた。</p> <p>学級をはじめとする生徒各自が所属する集団において、認められ、必要とされ、安心していられる居場所づくりを行なうとともに、生徒それぞれが活動できる場を諸活動において意図的に設定した。この結果、学年が進むにつれ自主的、実践的な態度が見えてきた。課題は、特定の生徒としか関われない生徒をいかに広く他者と関わらせるか。</p>	A
(4) 体育、健康教育の充実	<p>一人一人の子どもが、全生涯にわたり自ら進んで運動に親しみ、健康・安全で活力のある生活を送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら心と体を一体として捉え、健康でたくましい体を育む教育の推進に努める。</p>	<p>朝マラソンや縄跳びに取り組ませ、体力の向上を図っている。特にマラソンは100周達成を目標とし、達成者には賞状を授与し運動に親しむ資質や能力の育成、さらには体力の向上を図っている。</p> <p>交通安全教室、薬物乱用防止教室、思春期教室、救急救命講習を実施し健康で安全な生活の送り方を考えさせた。その結果、学年が進むにつれ健康でたくましい体になりつつある。課題は、日常運動をしない生徒への対応をどう進めるか。</p>	B
(5) 生徒指導の充実	<p>一人一人の子どもが、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関等との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに、問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。</p>	<p>PTA と連携して交通安全街頭指導を行ったり、民生委員との懇談会を設定し、児童の様子や問題を抱える家庭の状況について情報交換を行なうなどして、より地域との結びつきを意識した活動を行なっている。</p> <p>全職員が温・厳・美の心と態度で生徒に接し、心の結びつきを図った。また、自己存在感を与える取組、相互の共感的人間関係を育てる取組、自己決定の場や機会を設け自己実現の喜びを味わわせる取組を実践し、自己教育力の育成を図った。家庭や地域社会及</p>	B

		び関係機関には、情報提供や教育活動への協力を仰いだ。事故防止や生徒指導上の問題解決に役立っている。課題は、発達障害が疑われる生徒への指導の在り方。	
(6) キャリア教育の推進	一人一人の子どもが、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質、能力、態度の育成に努める。	各教科の学習を大前提としてそれぞれの教科及び学校行事の固有な内容と積極的に関連づけて行なうことにより、指導体制の整備・充実を図ることができた。キャリア教育を通して、育成する基礎的・汎用的能力それぞれを、教育活動のどの場面で身につけさせるのかを明確にするために、キャリア教育全体計画及び年間指導計画を見直し、新たに作成することができた。課題は、作成した計画が実用的であるか、各教科及び領域等との間で整合性がとれ、効率的で相乗効果があるものかを実践しながら確認すること。	B
(7) 特別支援教育の充実	発達障がいを含む障がいのある子どもが、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善、克服するとともに、その持てる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。	協力学級の学級担任やその他の教職員と気づいたことを定期的に話し合いながら、情報の共有化に努めることにより、一人一人のニーズに沿った教育支援を行なうことができた。子どもの実態と保護者の希望から将来の自立や社会参加を念頭に、校内支援体制を充実させ、普通学級での授業と特別支援学級での個別授業を実施した結果、本人と保護者が希望した進路に進むことができた。課題は、対象生徒の増加に伴い、一人一人のニーズに応えるためには、教員の負担が大きくなること。	A
(8) 環境教育の推進	一人一人の子どもが、環境と人間とのかかわりについて関心と理解を深め、環境に対す	社会科を中心として、水、ゴミ処理、環境問題について学習を行なうとともに、ティッ	

	<p>る豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。</p>	<p>シュペーパーの使用、水の出しっ放しなどについても考えさせるようにしている。環境問題を身近な問題として捉えるようになってきている。今は地域の環境に目を向けさせ、環境保全に積極的に取り組もうとする態度や実践力を育成する必要がある。</p> <p>全校町内清掃活動、学年花壇、畑の活用、ツツジ植栽、台風や洪水による避難方法の指導を行なったことにより、自然を含めた環境からの恩恵とその保全の大切さを実感させることができた。課題は、各教科及び領域等との相互の関連を計画的にすること。</p>	B
<p>(9) 国際化に対応する教育の推進</p>	<p>一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。</p>	<p>生活科や総合的な時間、さらにはクラブ活動などにおいて、地域の歴史や素材を活かした学習を取り入れていることにより、郷土に対する愛着を持てるようになり、国際化に向けた素地を育むことができている。</p> <p>全学年の英語の授業において、ALT を活用し、英語を通じたコミュニケーション能力の育成を図るとともに、各教科及び領域において、日本と諸外国の文化や習慣等を資料やインターネットで調べ、比較しながら理解を深めた。また、様々な側面でグローバル化が進んでいる現状をキャリア教育においても触れ、国際化に関心を持たせた。</p>	B
<p>(10) 情報化に対応する教育の推進</p>	<p>一人一人の子どもが、情報活用能力を身に付けることができるよう、情報モラルにかかわる指導の充実を図り、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。</p>	<p>視聴覚教育推進計画を作成し、低中高ごとの主な指導内容を示して、発達段階に応じてパソコンの操作ができるように取り組んだ結果、国語、社会、理科、総合的な学習などで ICT の活用がよくされている。</p> <p>技術科の「情報に関する技術」</p>	B

		の授業をはじめ、各教科及び領域において ICT を活用しての授業を取り入れている。さらに、情報モラルに特化して全校人権教室を実施し適切な情報活用ができるようにした。課題は、教員が ICT 活用に関して、更に研鑽を積むこと。	
(11) 研修の充実	教職の専門性を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・積極的な研修の推進に努める。	校内研修を充実させるために、研究協議の方法をワークショップ型で行なっている。活発な意見交換が見られ、授業を見る力、協議する力、発表力などを身につけることができている。 前年度の各分掌の研修計画に基づき、エビペンの使い方、道徳指導案の作成の仕方、言語活動の充実に関する研修等の校内研修も確実に実施することができた。また、全員が校外の研修にも参加することができた。課題は、研修してきたことを全教員で共有すること。	A

2 社会教育の推進

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	青少年の体験的活動の充実に努める。	少子化や学校の部活動の兼ね合いなどで、事業の参加者が減少している。また、単子子ども会の減少や子ども会活動の停滞に苦慮している。 小学校が1校に統合されることから、単子子ども会の統合も視野に入れていくべきである。	C
	地域が支えるキャリア教育の充実に努める。	町内では、小中学生の職場体験学習を受け入れ、キャリア教育の一端を担っている。 これからは、生きることや働くことについて、社会人・職業人として自立できるよう、地域との連携を図りキャリア	B

		教育を充実させる必要がある。	
	子どもの読書活動の充実に努める。	読み聞かせグループ「わにっこわくわく」は学校等で積極的な活動を展開している。平成26年度に「大鰐町子ども読書活動推進計画」を策定したので、それを基に、子ども読書活動に関わる機関や団体との連携を図りながら、子ども読書活動を地域全体で推進する必要がある。	B
	地域全体で子どもを育む活動の充実に努める。	大鰐町生徒指導推進協議会には大鰐町青少年健全育成協議会も出席し、町内の子どもたちが安心安全で健全な生活ができるように地域全体で見守り活動をしている。	A
	家庭教育支援の充実に努める。	父親の家庭教育参加の奨励するために、「親父の料理教室」を実施している。今後は、「親子で読書の日（仮称）」を定期的実施するなど、父親と子どもの触れ合いを重要視したい。	C
(2) 活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成	地域活動の実践者の育成に努める。	「総合的な学習の時間」等に地域の方をゲストとして活用している。一発活用で終わっているところがあるので、数回にわたる打合せを行ない、計画的・継続的に活用することが大切である。	B
	地域活動の指導者、コーディネーターの養成に努める。	社会教育委員と教育委員の交流を行なっている。今後は地域活動のコーディネーターの養成を図っていきたい。	B
	地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援に努める。	研修会や協議会等において、指導者や実践者、コーディネーター等が交流を深めたり、情報を共有している。地域活動に関わる人財のネットワークづくりを図る必要が	B

		ある。	
(3) 一人一人の主 体的な学習と 社会参加の推 進	関係機関との連携による多様な学習活動の支援に努める。	高齢者を対象とした学習機会（成人大学）は、健康、福祉、教養、レクリエーション及び芸術文化等の多様な分野で行なわれ、生きがいつくりや仲間づくりにつながるように工夫されている。 今後は、誰でも気軽に学習に取り組むことができる環境を整備し、地域課題やキャリアアップ等の学習機会を提供する必要がある。	A
	学習成果を生かした社会参加活動の支援に努める。	公民館講座を受講した者が、現在は講師となって教えている例があり、受講者のいい刺激になっている。 今後も、受講者による講師等の積極的な活用など、社会参加活動の促進及び支援を充実させていきたい。	B
(4) 社会教育推進 のための基盤 整備	社会教育推進体制の充実に努める。	社会教育の方針と重点に基づき、事業評価を行なっている。評価をするに当たっては、社会教育委員の意見等を取り入れ、改善に努めていきたい。	B
	社会教育施設の機能の充実と活用の促進に努める。	選挙投票所や避難場所に指定されている地区集会施設は階段であり、高齢者や障害者には不便をかけている。早めにバリアフリー化するように働きかけていきたい。	B
	社会教育関係職員の養成と資質の向上に努める。	職員の資質向上を図るため、教育委員会をはじめ関係部局、県が主催する研修会等へ積極的に参加させている。 本町でも社会教育主事の資格所持者は多数いるので、首長部局を含む社会教育関係職員のネットワークづくりを進めていきたい。	B
	社会教育関係団体等の活動の支援に努める。	同じ目的の人が5人以上集まったら、グループ・サークルを作りましょう、と勧めてい	

		る。さらにグループ・サークル化したら、講師の紹介・講師代等は教育委員会で払うことにし、支援を図っている。	B
--	--	--	---

3 文化財の保護活用

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1) 文化財の保護・保存	文化財を次代に伝えるため、適切に管理し、保護・保存に努める。	毎年1月25日の「文化財防火デー」には、重要文化財指定を受けている「大日如来像」のある大円寺本殿において防火訓練を行ない、文化財の保護・保存の意識の向上を図っている。	A
(2) 文化財の公開・活用	文化財に興味・関心を持ち、親しめるよう、公開・活用と情報発信に努める。	町文化祭芸能発表会等で、「獅子踊り」「登山囃子」等の芸能を披露し、町民に興味・関心の醸成を図っている。今後はさらに積極的な公開・活用を推進する必要がある。	A
(3) 伝統芸能・技術の継承	保存・伝承されてきた伝統芸能や技術の継承に努める。	近年後継者不足と指導者の高齢化に悩みながらも、小学生や中学生の後継者が少しずつ増えてきている状況にある。小中学生に理解が進むように、学校や地域での発表機会や体験活動等の事業を充実させていく必要がある。	A

4 生涯スポーツの振興

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1) 学校体育・スポーツの充実	健康保持増進と体力の向上を図ることができるよう、学校体育・スポーツの充実に努める。	小学校では朝マラソンや縄跳びに取り組みせるとともに、冬季間にはアルペンスキー、クロスカントリースキーなど、子どもの興味に任せながら実施し、運動に親しむ資質や能力の育成、さらには体力の向上を図っている。また、中学校では生徒全員が部活動加入にし、生徒が興味	A

		を持つスポーツの向上に努めている。	
(2) 健康教育の充実	学校保健、学校における食育及び学校安全を総合的に推進し、健康教育に努める。	町給食センター及び栄養士が養護教諭等学校給食担当者と連携しながら、地産地消等の食育や食物アレルギーに取り組んでいる。 また、学校内外の危険箇所については、大鰐町生徒指導協議会で共有し、各学校で指導に当たっている。	A
(3) スポーツの振興	スポーツに親しむ環境づくりと競技力を向上させる環境づくりを推進し、スポーツの振興に努める。	小中学校の部活動に町体協の指導員を派遣し、競技力の向上を図っている。 現在派遣している部活動は少ないので、徐々に増やしていきたい。	B

VIII 平成26年度 主な事業と経費及び成果等

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等	評価
教育活性化事業	355	地域における教育や文化活動の振興を目的として、その必要経費に対し補助金を交付する。 大鰐小マーチング東北大会 355千	大鰐小学校マーチングバンド部の東北大会出場に係る経費の一部を補助したことで、文化活動を通して児童一人一人が貴重な体験をし、今後における豊かな人格形成に貢献した。	A

幼稚園就園事業	1,285	幼稚園に通わせる費用を国と町が補助することで、保護者の経済的負担の軽減と地域の幼稚園教育促進を目的としている。 国補助 1/3、町 2/3	幼稚園に子どもを通わせている保護者の経済的負担軽減と地域における幼稚園教育の促進に寄与している。 補助金の交付対象者 11人	A
生きる力育成事業	1,890	大鰐小 530 第二小 210 蔵館小 260 長峰小 310 鰐 中 580 <hr/> 計 1,890	「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」などの「生きる力」を育むために、小学校においては地域の伝統文化を含む郷土学習や家庭学習の習慣化に取組み基礎学力の定着に効果を発揮した。また中学校においては、受検対策の教材を効果的に使い、学力向上が図られた。	A
A E T 招致事業	4,537	人件費 4,294 需用費 49 住宅借上げ 91 負担金 97 その他 6 <hr/> 計 4,537	中学校を中心に A E T を派遣することによって、生きた英語を体験することができた。また小学校においては A E T と交流することで英語に親しみ、中学校からの英語教科にギャップなく取組めるようになった。また、外国の習慣など、国際感覚を身につけさせることができた。	A

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等	評価
小学校改修事業	48,815	非常用放送設備更新 4,514 内部物置設置 2,193 外部物置設置 4,133 校舎、渡り廊下塗装 10,120 体育館屋根葺替え 13,554 駐車場拡張工事 3,396 冷暖房工事 2,954 その他 7,951 <hr/> 計 48,815	小学校の統合に向けた改修工事を実施した。 工事により快適な学習環境を整えることができ、児童数の倍増に対応できるようになった。	A

中学校改修事業	23,391	B棟教室壁修繕工事 5,875 体育館屋根葺替え 16,178 油送配管工事 1,231 その他 107 <u>計</u> 23,391	学校施設・設備等の改修工事等を実施することにより、学校施設等の適正な維持管理が図られた。	A
小学校扶助費	6,329	就学援助費 5,985 ・学用品 1,173(51人) ・給食費 2,495(53人) ・医療費 6(1人) ・遠距離通学 792(20人) 特別支援就学奨励費 446 ・学用品 294(3人) ・給食費 152(3人) <u>計</u> 6,329	○就学援助費・特別支援就学奨励費 経済的理由により、就学困難な児童生徒の保護者及び特別支援学級で学ぶ児童生徒の保護者に対して教育を受けるうえで必要な学用品費や学校給食費の扶助をしたことにより、義務教育の円滑な実施がなされた。	A
中学校扶助費	5,852	就学援助費 5,406 ・学用品 2,638(39人) ・給食費 1,970(40人) ・医療費 6(1人) ・遠距離通学費 792(20人) 特別支援就学奨励費 446 ・学用品 294(3人) ・給食費 152(3人) <u>計</u> 5,852	小学生 57人、中学生 45人 ○遠距離通学費 遠距離地域から通学する児童生徒の保護者に対して、通学費の全額または一部を扶助したことにより、保護者の経済的負担の軽減と義務教育の円滑な実施がなされた。 小学性 88人、中学生 20人	

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等	評価
生涯学習推進事業	460	生涯学習だより・成人大学・ふるさと子ども教室・成人式等各種事業の実施	社会の変化やライフステージに即した事業及び子どもたちが地域文化に触れる機会を設けた事業を展開し、町民一人一人が主体的に学ぶ学習機会の提供をした。	B
俳句の街づくり推進事業	1,294	大鰐温泉俳句の街づくり実行委員会補助金 216 俳句かるた作成補助金(児童生徒等配布用) 916 俳句かるた制作費(一般頒布用) 162 <u>計</u> 1,294	毎年開催されている俳句大会に加え、児童期から俳句に親しむよう手古奈俳句かるたを作成し、児童生徒に配布するとともに、一般にも頒布した。	B
図書購入事業	500	公民館図書購入	児童用図書、一般用図書、	

			生活関連雑誌等を購入し、町民の利用に供することができた。	A
放課後子ども教室推進事業	1,769	放課後子ども対策事業(補助率県2/3) 教育支援サポーター(旧安全管理員)、コーディネーター謝金等	中央公民館、長峰小学校、第二小学校、湯野川原社会福祉館で実施し、平成25年度から月曜日も開催。放課後における子どもの安全・安心な居場所づくりと有益な余暇活動のための放課後子ども教室を開催することができた。	A
各体育団体補助金	9,088	小学校部活動 1,029 中学校部活動 2,810 町体育協会 1,933 小学校体育連盟 160 県民駅伝競争大会 364 各種スキー大会 292 全中スキー大会 2,500 計 9,088	小中学校の部活に補助をすることによって、各種大会への参加や競技力の向上が図られた。また、社会体育においては地域間の交流や関係者の健康意識の高揚が見られた。全国中学校スキー大会においては、競技を通じて交流や友情が育まれた。	A
小学校閉校記念事業	11,976	閉校記念品 502 閉校記念誌 1,862 各校閉校記念事業補助 2,000 校歌制作費 4,000 教材等備品移動等 2,978 その他 634 計 11,976	4校統合にあたり、閉校する各学校の閉校式、記念誌、新しい小学校の校歌の制作等、統合を円滑に進めることができた。	A
小学性リフト券無料化事業	347	リフト使用料 347	町と指定管理者との協議により、身分証明書を提示すれば無料券を取得できるようにした。これにより、小中学生のスキー離れの減少や保護者の負担が軽減された。	A
中学生リフト券無料化事業	224	リフト使用料 240	小学生 365枚 中学生 160枚	

IX 評価委員による点検・評価

大鰐町教育委員会点検・評価委員会
委員長 藤田昇治

【教育委員会会議について】

毎月の定例の会議のほかにも臨時の会議が1回開催され、概ね適切に議論がなされている。大鰐小学校の統合という大きな課題についても住民の意向を尊重する姿勢が伝えられている。新教育委員会制度への移行についても、滞りなく適切に対応している。

【学校教育の推進について】

一人一人の成長を図り、「道德教育の充実」、「特別活動の充実」、「生徒指導の充実」、「キャリア教育の推進」などの項目で大きな成果を上げていることは評価できる。今後、「ネット社会」に対して「情報化に対応する教育の推進」が図られる必要がある。また、小学校が統合されたことにより、様々な教育上の効果が期待される反面、生じる可能性がある問題については些細なことでも見逃さず、適切に対応していただきたい

【社会教育の推進】

今日、住民同士の交流が不足し孤立する傾向が強まる中で、高齢者を対象とした「成人大学」等では、大きな成果を上げている。また、「子供会」の再組織が困難な状況にあって、「ワニcome」は児童生徒の成長を育む活動をし大きな成果を上げている。今後も継続した活動ができるように、これまで同様の援助をしていただきたい。また、「俳句づくり」等の住民の自立的・積極的な学習活動をサポートする公民館の活動が評価され全国表彰されたことをふまえ、今後より具体的に事業を企画実施したり、住民一人一人の学習活動の推進と「社会参加」の促進を図って欲しい。加えて、昨年度は全国中学校スキー大会が開催されましたが、多くのボランティアの力を結集して成功裏に終わることができたことはすばらしいことだと思う。今年度は全国高等学校スキー大会、来年度は全日本大学スキー大会が開催されますが、ボランティアを活用しながら大会を盛り上げていただきたい。

【文化財の保護活用について】

「文化財の保護・保存」や「文化財の公開・活用」、「伝統芸能・技術の継承」という課題では、とりわけ地域で継承されてきた伝統芸能の後継者が、小学生や中学生で少しずつ増えてきており、大きな成果を上げている。今後、地域の人口減少や若者の流出などが危惧される中で、地域固有の歴史・文化についていっそう理解を深め、住民の「絆」を強め、さらに地域を活性化させていくことが期待される。

【生涯スポーツの振興について】

小学校や中学校においては、「学校体育・スポーツの充実」や「健康教育の充実」、「スポーツの振興」が積極的に図られている。今後は、「健康保持」や「絆づくり」といった意味も含めて、地域住民の中での「スポーツ活動」の定着を図って欲しい。